



**シラバス参照**

タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「経済経営学類」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	<a href="#">クズネツォ - ワ・M</a>		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:L
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術 本質を見極めるための教養と学際性 協働的な問題探究 社会の改善につなげる創造性 市民としての主体的態度	20 % 20 % 30 % 20 % 10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	本演習は、英語で簡単なスピーチ・プレゼンテーションのやり方を学習することで、グローバル時代に必要とされるコミュニケーション能力を高めることを目指します。また、受講生の皆さんが、東日本大震災・原発事故に起因する福島県の問題の理解・探究を基本とし、福島の抱えている問題について、欧米式のスピーチ・プレゼンテーションを行うスキルを少しでも身につけることを期待しています。		
単位認定基準	与えられたテーマについて情報を収集・整理することができる。 個人やグループにおいて問題の探究、解決のスキルを活用することができる。 ③問題に対する基本的な理解を深め、英語で簡単なスピーチ・プレゼンテーションをすることができる。		
授業計画	第1回 授業の進め方、受講にあたっての心構えなどについて説明します。 第2回 欧米式のスピーチの仕方:「簡単な自己紹介」の学習 第3回 欧米式のスピーチの仕方:自己紹介のための資料作成の学習 第4回 欧米式のスピーチの仕方:自己紹介のための資料作成(グループワーク) 第5回 欧米式のスピーチの仕方:自己紹介のための英文資料作成(グループワーク) 第6回 欧米式のスピーチの仕方:発表 第7回 欧米式のプレゼンテーションの構成の学習 第8回 欧米式のプレゼンテーション:「3/11以降の福島の紹介」のグループ別のテーマ設定 第9回 欧米式のプレゼンテーション:「3/11以降の福島の紹介」の資料作成(グループワーク) 第10回 欧米式のプレゼンテーション:「3/11以降の福島の紹介」PPTのスライド作成(グループワーク) 第11回 欧米式のプレゼンテーション:「3/11以降の福島の紹介」PPTの英文ノート作成(グループワーク) 第12回 学生のスピーチ・プレゼンテーション:発表、質疑応答(グループ1と2) 第13回 学生のスピーチ・プレゼンテーション:発表、質疑応答(グループ3と4) 第14 まとめ 第15回 補講(行う場合は授業期間中にお知らせします。)		
教材・教科書	プリントを配布します。		
参考図書	授業で紹介します。		
参考URL			
授業以外の学習	授業のための準備(プリントの予習や復習、資料作成、パワーポイント等のスピーチ・プレゼンテーションを作成することなど)が求められます。		

成績評価の方法	(単位認定基準)で挙げた ~ について、授業への取り組み方(参加姿勢)、平常点(スピーチ・プレゼンテーションなど)により総合的に評価します。
成績評価の基準	S: 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90~100点) A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80~89点) B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70~79点) C: 単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60~69点) F: 単位認定基準の学修成果をあげられなかった(~59点)
オフィスアワー	火曜日18:00~19:30(会議等により面会できないこともあるので、事前に連絡してください。他の時間帯でも可能です。)
授業改善・工夫	新規科目です。
留意点・注意事項	本演習の使用言語は日本語です。しかし、利用する教材等は英語のプリントを含みます。プレゼンテーションの言語は英語です。
教員の実務経験の有無	



Copyright (c) 2004-2011 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.